

3年ぶりの優勝を果たした帯大谷



全国へ投・守・走に磨き

帯大谷が2試合連続の五回コールド勝ちで3年ぶりの優勝を飾った。初戦の帯三条戦は初回、先頭の坂本美優（2年）が三塁線を破る二塁打で出塁すると、続く河瀬紗有主将（3年）の右前適時打で先制。1、2番の電光石火の攻撃で勢いに乗り、この回打者一巡の猛攻で一挙5点を奪った。1勝同士の優勝決定戦となった帯南商戦は、エース大川茉帆（2年）が4点を被安打1の1失点に抑える好投。打線も初戦を上回る10得点とつながりを見せ、投打がかみ合う快勝だった。

昨秋、全国高校選抜大会道予選で準優勝を果たす大躍進。冬には基礎練習を徹底して行い、走攻守のレベルアップを図った。投手陣も2年の大川、佐藤杏奈、沼田夏蓮の3枚に、1年の大淵侑奈も加わり、厚みが増した。

坂本文子監督は「投手力、守備力ともに上がってきた。走塁も次の塁を積極的に狙う姿勢が良かった」と手応えを得る。河瀬主将は「全道では自分たちに流れを引き寄せるプレーを心掛けたい。みんなでつなぐ意識を大切にインターハイ出場を勝ち取りたい」と力を込めた。



全十勝高体連

ソフトボール

（26日、音更中央公園ソフトボール場）

3校がリーグ戦を行った。帯大谷は帯三条に9―0、帯南商に10―1と2試合ともコールドで勝利し、2019

年以来3年ぶりの優勝を果たした。準優勝は帯三条を7―6のサヨナラ勝ちで下した帯南商。今年度の全道大会（6月18〜20日、石狩市）は、来年度に北海道を会場に開催される全国高校総体（インターハイ）のプレ大会として実施されるため、全チームに全道大会への出場権が与えられる。（小野寺俊之介）

【帯大谷―帯南商】帯大谷の大川茉帆は4回1失点と好投した

準優勝の帯南商



帯南商、帯三条も全道へ

帯三条	2210010	76	【二】藤田―鈴木
帯南商	0000322		▽三塁打―中村（大）
【三】			▽二塁打―坂本2、河瀬、今野（大）
【南】			帯大谷
【武藤、大川莉、角田			03421
▽二塁打―佐々木、鈴木			00410
（三）			110
帯大谷	51021	09	帯南商
【大】	00000		（五回コールド）
【佐藤、大淵―中村			【大】大川茉、大淵―中村
（五回コールド）			▽三塁打―河瀬（大）
			▽二塁打―田中（南）